

第8回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 平成26年1月22日（水）午後2時30分

ところ 京都府医師会館 2F 212・213会議室

△北川副会長挨拶

北川府医副会長は、診療報酬改定について、財務省と官邸が主導した結果、実質マイナス改定となったことを報告。消費税での上乗せ分を薬価の引き下げで充当する形になっている点を問題視するとともに、1月24日締切の診療報酬に係るパブリックコメントへの協力を依頼した。また、来年の医療法、介護保険法等の改正に向けた議論が上がってくることを見通し、地区医と協力して日医、行政に様々な要請していく意向を示し、挨拶を締めくくった。

△報告ならびに協議事項

1. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

2月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。

2. 最近の中央情勢について（城守理事）

平成25年11月下旬から平成26年1月中旬にかけての社会・医療保険状況について、診療報酬改定にかかる議論についての話題を中心に説明した。

3. 平成26年度診療報酬改定点数説明会の開催について（内田理事）

説明会の開催日程を紹介。府医から送付するハガキ（3月初旬予定）が当日の資料との交換となるため、大切に保管いただくよう依頼した。（京都医報2014年2月1日号（No.2022）保険だより参照）

4. 新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づく特定接種登録に係る

説明会について（藤田理事）

説明会の開催日程を紹介。新型インフルエンザ等が流行した際のワクチン接種の流れとして、第一線に立つ医療機関がまずワクチンを接種し、その後国民生活・国民経済安定分野に類する業種への接種を経て、最後に住民接種を行う形で進めることを報告。特定接種登録申請にあたっては、医療機関ごとに診療継続計画を作成する必要があることを説明するとともに、日医が「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画（案）」を作成しているため、これを参考に診療継続計画を立ててほしいと依頼した。また、大流行した場合には、相当数の医療者が確保されることによって初めて全国民にワクチン接種できるとして、眼科や皮膚科等、普段インフルエンザの治療に直接関わらない診療科も含め、積極的に登録していただくよう依頼した。

5. ケアマネタイムリストの更新について（関理事）

ケアマネジャーとの連携を円滑にするために2年ごとに更新しているケアマネタイムリスト（TEL・FAX等による情報交換可能時間を示したもの）について、内容の更新と充実を

目的に再調査を実施することを報告。掲載中の医療機関だけでなく、全医療機関に協力依頼のDMを送付していること説明した上で、地区での周知を依頼した。

6. 「京都式若年性認知症ガイドブック」について（関理事）

「若年性認知症『京都オレンジガイドブック』」について、地区医師会長に対し、既に確認を依頼していることを報告した上で、各地区医で検討いただくよう、重ねて依頼した。

7. 前立腺がん地域連携パス説明会について（上田理事）

と き 3月8日（土）午後3時～4時

と ころ ANAクラウンプラザホテル京都

内 容 ①前立腺がん地域連携パス（京都府統一版）について

京都大学医学研究科泌尿器科学教室 講師 井上 貴博氏

京都府健康福祉部健康対策課 副主査 古川 浩気氏

②京都市前立腺がん検診の現状について（仮題）

京都府医師会前立腺がん検診委員会 委員長 北村 浩二氏

5大がんと同様、前立腺がんの地域連携パスが京都府の統一様式で運用されることとなったことを報告し、これまでも実施してきた京都市前立腺がん検診の現状と併せて説明会をすることを紹介。診療報酬の手当のある、連携医療機関は後日募集することを報告し、地区医での周知を依頼した。

8. 会員医療機関あての不審電話について（濱島理事）

今年に入ってから会員医療機関あてに「京都府医師会担当の〇〇です」と名乗って電話をかけ、投資などの勧誘をする事例が相次いでいることを報告。府医から不動産や投資などの勧誘は行っておらず、職員がそのような会員医療機関に電話をかけることはないことを説明し、注意を呼びかけた。

9. 時局講演会について（濱島理事）

と き 2月15日（土）講演会 午後5時～6時、懇親会 6時～

と ころ 京都ブライトンホテル

講 師 参議院議員（前日本医師会副会長） 羽生田 たかし氏

上記の通り開催することを紹介し、多数の参加を依頼した。（京都医報 2014年1月15日号（No. 2021）付録参照）

10. 平成25年度京都府リハビリテーション教育センター第2階座学研修会について

（城守理事）

と き 3月23日（日）午後1時～5時

と ころ 京都府立医科大学図書館ホール

上記の通り開催することを紹介。1講演のみの受講も可能であることを説明した上で、かかりつけ医に総合的に患者を診ていただきたいという流れの中での講演会でもありとして、地区医での周知と、各地区3名程度の動員を依頼した。

最後に、森府医会長から挨拶があり、今後、研修医枠の減少、医学部新設、医療の総合特区、TPP参加等も含めて厳しい問題が次々出てくると見通し、地区医と共に、様々な検討を重ねていく意向を示した。特に、地域医療と住民との連携が大きな課題になってくるとの見方を示し、在宅医療を進める上ではリハビリテーションの推進が必要になることから、府医大に「リハビリテーション教育センター」を設置していることを報告。「在宅医療や地域医療を進めていく上で、地域でのリハが浸透していかなければ住民の方々の生活の質は担保できない」との考えを示し、一般の診療所の医師も利用できる形で取り組みを進めていきたいとして、協議会を締めくくった。